

第 15 期決算報告について

スカイネットアジア航空株式会社(本社:宮崎県宮崎市、代表取締役社長:高橋 洋)の第 15 期決算(平成 24 年 3 月期)について、下記のとおり報告致します。

記

1. 運航実績および搭乗実績

※コードシェア販売分を除く

(1) 四半期別実績

		第 1 四半期	第 2 四半期	上期計
運航実績	運航予定便数	4,776 便	4,968 便	9,744 便
	定期運航便数	4,609 便	4,873 便	9,482 便
	欠航便数	167 便	95 便	262 便
	就航率	96.5%	98.1%	97.3%
	定時出発率	92.7%	91.4%	92.1%
搭乗実績	提供座席数 (前年同期比)	420,619 席 (110.4%)	472,113 席 (116.3%)	892,732 席 (113.5%)
	搭乗者数 (前年同期比)	233,578 人 (110.5%)	323,407 人 (116.6%)	556,985 人 (114.0%)
	搭乗率 (前年同期搭乗率)	55.5% (55.5%)	68.5% (68.3%)	62.4% (62.1%)
		第 3 四半期	第 4 四半期	下期計
運航実績	運航予定便数	4,964 便	4,914 便	9,878 便
	定期運航便数	4,950 便	4,900 便	9,850 便
	欠航便数	14 便	14 便	28 便
	就航率	99.7%	99.7%	99.7%
	定時出発率	94.5%	95.1%	94.8%
搭乗実績	提供座席数 (前年同期比)	479,735 席 (112.7%)	492,228 席 (112.3%)	971,963 席 (112.5%)
	搭乗者数 (前年同期比)	300,518 人 (104.2%)	321,602 人 (118.8%)	622,120 人 (111.3%)
	搭乗率 (前年同期搭乗率)	62.6% (67.7%)	65.3% (61.7%)	64.0% (64.7%)

(2)前事業年度比較

		前事業年度	当事業年度	増減比較(増減率)
運航実績	運航予定便数	17,418 便	19,622 便	2,204 便(+12.7P)
	定期運航便数	17,204 便	19,332 便	2,128 便(+12.4P)
	欠航便数	214 便	290 便	76 便(+35.5P)
	就航率	98.8%	98.5%	(-0.3P)
	定時出発率	90.7%	93.5%	(+2.8P)
搭乗実績	提供座席数	1,650,898 席	1,864,695 席	213,797 席(+13.0P)
	搭乗者数	1,047,729 人	1,179,105 人	131,376 人(+12.5P)
	搭乗率	63.5%	63.2%	(-0.3P)

2. 路線別搭乗率(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日) ※コードシェア販売分を除く

路線		利用率(前年同期差)	前年同期利用率
東京線	－宮崎	61.4%(-8.6P)	70.0%
	－熊本	69.3%(+5.5P)	63.8%
	－長崎	59.9%(-2.8P)	62.7%
	－鹿児島	69.1%(+9.7P)	59.4%
	－大分	60.2%(+4.8P)	55.4%
	小計	63.6%(-0.4P)	64.0%
沖縄線	－宮崎	67.5%(-0.2P)	67.7%
	－熊本	57.7%(-1.6P)	59.3%
	－長崎	47.6%(-0.6P)	48.2%
	－鹿児島	56.1%(+4.6P)	51.5%
	小計	57.0%(+1.4P)	55.6%
全路線合計		63.2%(-0.3P)	63.5%

3. 平成 24 年 3 月期の業績(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

(1) 営業実績

(単位:百万円)※未満切り捨て

	営業収入	営業利益	経常利益	当期純利益
24 年 3 月期 (23 年 3 月期増減率)	29,226 (10.9%)	655 (-37.9%)	650 (-21.2%)	536 (-30.3%)
うち 24 年 3 月期下期	14,974	437	594	501
23 年 9 月期	14,252	218	55	34
23 年 3 月期	26,345	1,056	825	769

(注)営業収入には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財務状況

(単位:百万円)※未満切り捨て

	総資産	純資産	自己資本比率	資本金
24年3月期	9,687	2,695	27.8	2,345
23年9月期	8,958	1,766	19.7	2,345
23年3月期	8,501	2,256	26.5	2,345

4. 財務諸表

(1) 貸借対照表

(単位:百万円)

期別 科目	前事業年度末 (平成23年3月31日現在)	当事業年度末 (平成24年3月31日現在)	増減
(資産の部)			
I 流動資産	4,938	6,026	1,087
(現預金)	(2,439)	(3,318)	(879)
II 固定資産	3,559	3,659	99
III 繰延資産	2	1	△1
資産合計	8,501	9,687	1,185
(負債の部)			
I 流動負債	3,613	3,781	168
1 短期借入金	238	258	20
2 その他	3,375	3,522	147
II 固定負債	2,631	3,209	577
1 長期借入金	881	622	△258
2 その他	1,750	2,587	836
負債合計	6,245	6,991	745
(純資産の部)			
I 株主資本	2,080	2,616	536
1 資本金	2,345	2,345	-
2 資本剰余金	411	411	-
3 利益剰余金	△676	△140	536
II 評価・換算差額等	175	79	△96
純資産合計	2,256	2,695	439
負債・純資産合計	8,501	9,687	1,185

(2) 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	うち (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)	増 減
I 営業収入		26,345	29,226	14,974	2,881
II 営業費用		25,288	28,571	14,536	3,282
営業利益		1,056	655	437	△400
III 営業外収益		41	103	47	61
IV 営業外費用		272	108	△110	△164
経常利益		825	650	594	△175
V 特別損失		42	100	85	57
税引前当期純利益		783	550	508	△232
法人税、住民税及び事業税		13	13	6	0
当期純利益		769	536	501	△233

5. 業績等の概要

(1) 当事業年度における我が国の経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災(以下「震災」という)の影響により深刻な打撃を受け、マイナス成長が2四半期続くなど厳しい状況からのスタートとなりました。官民の総力を結集した復旧・復興事業を通じてサプライチェーンの急速な立て直しが図られ、景気は一旦持ち直しに転じました。夏以降は急速な円高の進行や欧州の債務危機顕在化による世界経済の減速が景気の回復テンポを緩やかなものにしております。

九州においても、震災による自粛ムードを背景とする需要減退で幕を開け、その後は徐々に景況が改善し、景気が持ち直していくことが期待されるものの、海外経済の動向や急激な円高、イラン情勢ほかを主因とする原油価格の高騰等により景気が下押しされるリスクが存在しており、雇用状況などと併せて留意する必要があります。

(2) この様な事業環境の中、当社は当事業年度を通じ、平成23年度～平成24年度を対象とする2カ年の「新中期事業計画」に取り組んで参りました。まずは、平成23年7月1日より新ブランド「ソラシド エア」を、新コーポレートカラーとして「ソラシドピスタチオグリーン」を各々導入し、次に、燃費改善や快適性等の機材性能向上とオペレーション品質の更なる向上を目的として、新型機(ボーイング 737-800 型機)3機の投入を実現致しました。機材性能の向上とオペレーションの改善により、運航実績は通期98.5%(うち下期99.7%)、定時出発率は通期93.5%(同94.8%)と、品質を示す指標につき期待通りの向上が図られています。

(3) 営業面におきましては、平成 22 年 10 月末に就航した東京一大分路線の通期の寄与、平成 23 年 3 月末の東京一宮崎路線の増便もあり、期間としての搭乗者数は 1,179,105 人(前事業年度比 12.5%増)となりましたが、提供座席数の伸長には及ばなかったため、全路線合計の搭乗率は 63.2%と前事業年度(63.5%)を僅かながら下回りました。これらの結果、営業収入は 29,226 百万円(同 10.9%増)となりました。

(4) 上記の通り増収とはなりましたものの、損益は、事業原価、販売費・一般管理費に営業外収支まで加味した費用が 28,575 百万円と前事業年度に比し 3,056 百万円増嵩し、経常利益が 650 百万円(前事業年度比 21.2%減)、当期純利益が 536 百万円(同 30.3%減)の減益となりました。減益決算となった当事業年度の主たるコスト増要因は以下の通りでございます。

①原油価格高騰に伴う航空燃料費の増嵩

②一部リース航空機材の高機齢化に伴う航空機材整備引当金繰入増

③高齢リース機材の早期返却に伴う解約費用等発生による特別損失の計上

また、当事業年度上期は、経常利益 55 百万円、当期純利益 34 百万円と低水準に止まりましたが、下期につきましては、オペレーション品質の改善等を背景とする搭乗実績向上が奏功し、経常利益 594 百万円、当期純利益 501 百万円と、前事業年度の下期を上回る利益水準を確保致したところであります。

この結果、当事業年度末における累積損失は 140 百万円となりました。当該累積損失を新中期事業計画期間の 2 年目に当たる平成 24 年度に解消することが経営課題であると認識しているところでございます。

(5) 他方、財政状態は、事業規模拡大に伴い総資産が相当程度増加する中で、純資産が 2,695 百万円(前事業年度末比 439 百万円増)、自己資本比率 27.8%(同 26.5%)と、内部留保の蓄積を図りました。また、営業活動が創出するキャッシュフローが投資活動と財務活動における資金支出を賄い、現預金残高は 3,318 百万円(前期末比 879 百万円増)となっております。

(6) なお、当事業年度中にソラシドスマイルクラブ会員の個人情報誤表示(対象 1 名)されるという事象が発生しました。直ちに社外有識者を中心に構成される専門委員会を設置、原因究明と対策に関する調査結果を踏まえ、一旦停止した同スマイルクラブサービスを早期に再開致しました。現在までに情報セキュリティ方針を策定する等引き続き対策強化に取り組んでおります。

(7) 平成 24 年度は、ボーイング 737-800 型機への更新(平成 24 年度 3 機、新中期事業計画 2 力年合計で 6 機を調達)を着実に実行致します。また、先日新型機材をさらに 4 機追加導入することを決定し、リース契約を締結致しましたので、平成 26 年度には合計 10 機となる予定です。

これらの新型機材の導入を通じたオペレーション品質向上と新ブランドの定着および市場認知度の向上を図るとともに、平成 24 年 8 月には、東京一宮崎路線就航 10 周年を記念し、かねてお客様より好評頂いている事前購入型割引運賃「バーゲン 28」の最安値価格を、一部期間を

除きこの4月より全路線全便均一価格に統一する等、顧客基盤の拡充に一層邁進致します。

以上